

商品制作による技術向上

1. 目的

花束やアレンジメントの商品制作やお客さんからオーダーを受け商品を作成するという経験が少なく、技術不足のため商品制作による技術向上を目指しこのテーマを設定した。ラッピングの経験も少なく、レポートリーが少ないため、少しでも多くの種類のラッピングができるようになるという目標をたてた。また、就職後、お客さんからオーダーを受け、商品を作成することになるので、学内の人からオーダーを受け、花束を作成することでオーダーに対応できる技術を身に付けられるように取り組んだ。

2. 方法

(1)花束

ピンク、黄色、白&グリーンの三色をイメージカラーに、それぞれ約 5,000 円、3,000 円、1,000 円のものを制作する。制作後先生に指導を受け、改善し、その後、ラッピングをする。ラッピングは 1 つの花束に対して 4~6 パターンの異なる印象のラッピングをする。ラッピングしたものをパターン A,B,C,D に分け分析をする。ラッピングした花束の印象を「可愛い」「クール」「落ち着いた」「派手」「優しい」「強い」「さわやか」「ナチュラル」「チープ」「豪華」の 10 のワードで分析する。

(2)オーダー花束

校内の学生 1 名、職員 3 名の計 4 名に「用途」「予算」「色」「ラッピング」「雰囲気」を聞き取り、制作する。オーダーに沿った花束を制作後、お渡しをし、「花束は良かったか」「要望に添えていたか」「ラッピングはどうだったか」「良いと思われた点」「残念に思われた点」のアンケートを取る。改善すべき点があったら、改善し再度感想を伺う。

3. 制作

ピンク花束 3 個、黄色花束 3 個(表 - 1)、白&グリーン花束 3 個、オーダー 4 個(表 - 2)。

4. まとめ

(1)花束イメージ

使用するグリーンや花材の配置する位置で花束の印象が大きく変わることが分かった。

花材選びで花材の色のトーンのことと考えて選ぶ必要があるということが分かった。

(2)ラッピング(表 - 1)

様々なパターンのラッピングをしてみてパターンによって受ける印象が違ってくるということが分かった。パターン A は角が多く、「豪華」に見え、パターン B は、ラッピングの切れ目が見えており鋭く「クール」な印象に見え、パターン C は折り目を見せることで「可愛い」印象に見え、パターン D は一方見の花束に適した形のラッピングだということに分かった。

(3)オーダー花束(表 - 2)

実際にお客さんからオーダーを取るところから制作まで試みて、お客さんのイメージしている通りの花束を制作することの難しさや、お客さんのイメージ通りの花束を制作するにはオーダー時に細かく聞き取りをすることが大切だということを学ぶことができた。

表 - 1 花束

5,000 円					
パターン A		パターン C		パターン D	
					
3,000 円					
パターン A	パターン B	パターン C	パターン D		
					
1,000 円					
パターン D					
					

表 - 2 オーダー花束

長谷川さん	
	➡ 